



元気っ子通信

令和3年3月29日

元気っ子クラブ
中瀬 美津子

この学童も、もうすぐ閉所だと思うと色々なことが思い出され、感慨深いものがあります。平成13年に始まり、椿小学校と深伊沢小学校の子どもを合わせて10人にも満たない数でした。椿小学校の子は下校時間に合わせて、何回かに分けて迎えに行ったものです。恒例の夏の川遊びは20年間続きました。ギラギラした日差しを浴びながら、田んぼや畑の中を山を見ながら歩いていき、川の音が聞こえると早足になり、歓声を上げて川に飛び込む子どもたちの様子は私の脳裏から消えることはないでしょう。

たくさん叱りもしました。励ましの言葉もかけました。こうして過ごした時間が子ども達のこれからの人生に糧となっていることを願います。

私自身もたくさんの方のことを学び、考え、元気をもらってきました。もう少しやりたいという願望はあるのですが、年齢には勝てません。体力・精神力に自信を失ってきて、今のうちに安心してお任せできる方を捜していたところ、なごみの山中先生に相談して引き受けて頂くことになりました。信頼できる誠実な方で「この先生になら」と閉所する決断ができました。

コロナを機に世の中は変化していきたくらうと思います。子ども達にはたくさんの方々と、遊び・読書・スポーツ・音楽等々ひろい経験を通して育ってほしいと心から願います。

そして、どんな環境でも、自分で考えて行動できる強さを身につけてほしいと思います。

長い間、ご父兄の皆様には学童の運営に御理解、御協力をいただきまして、感謝いたします。ありがとうございました。